

佳作

はげましをリレーした夏

山梨県 駿台甲府小学校三年 葉袋 瑛子

わたしは、夏休みに八ヶ岳へ四はく五日でキャンプに行きました。出発式で先生が、「にじが見たかったら雨はがまんしなければなりません」というお話をしてくれました。わたしは、この時どういう意味がよく分からなかったけれど、この言葉がずっと気になっていました。

一日目、はじめて会った人ばかりの班で体を動かすゲームをして、班の人と少しなかくなりました。夕食のしたくで玉ねぎを切っていると、しるが目に入ってなみだが出ました。すると、なんだかさみしい気もちになって、なみだが止まらなくなりました。その時、班の友だちの一人が、

「あき子、さみしいの。わたしもその気もち分かるよ。だけど、あと四日、キャンプを楽しもう。」と声をかけてくれました。わたしは、心があたたか

くなつてえ顔になることが出来ました。みんなでいっしょに食べたカレーはとてもおいしかったことをおぼえています。

三日目には、午前二時におきて、めしもり山の登山にしようせんしました。うすぐらくて、ねむいうえに、大きな岩や太い木の根があるので一歩一歩が大へんでした。

ふととなりを見ると、べつの友だちがつらそうな顔をしていました。そこでわたしは、

「だいじょうぶ。もうちよつとがんばろう。」

と言って手をつなぎました。すると、かの女は、さきほどの顔がうそのようにわらい返してくれました。

しかし、ちよう上まで半分の道のりのところで、足が重くなり、歩く早さがおそくなってきました。

その時、だれかが歌い始めたのです。一人、また一人と歌いだし、歌とともに足がテンポよく動きだし、歩く楽しみがじゅう電されたみたいでした。

いよいよちよう上につくと、今まで見たことのない景色が広がっていました。谷一面を雲がおおい、まるで海のように流れていました。さらに山はだをまっ白な雲がたきのように流れおちていたのです。周りの友だちは、登りきったうれしさで大さわぎだったけれど、

け色を見ているうちに、わたしの耳からまわりの音がきえてゆき、一人雲の海にうかんでいるようでした。

出発式の際に先生が話した「にじ」は、このけ色のこと、そして「雨」は、みんなでのりこえた山登りのことなのだど気づきました。つらい気もちをのりこえさせてくれたのは、なか間とのはげましのりレーのおかげにちがいありません。

山の帰り道では、山びこが聞こえるかをためしてみました。班のみんなで声を合わせて、

「ヤッホー。ヤッホー。」
とさけぶと、

「ッホー。ッホー。」

と、山びこが返って来ました。はげましのりレーが、山いっばいに広がって、何だかうれしくなりました。